

平成19年度 新方公民館主催事業

郷 土 史

～越谷周辺の地域特性からみた産業と文化の発達について～



第2回 【工業・工芸】 資料集

「越谷の雛人形」

鴻巣雛は、文化・文政年間(1804~1830)に刊行された『新編武蔵風土記稿』巻148足立郡上谷新田の条には

上谷新田は、(中略)鴻巣宿にも接し、北は上下生塚出村に交はれり、民家六十街道の左右に軒を並べ、耕種の暇雛人形なるものを製し諸方にひざぎで生産の資となす、是を雛といへり、

と見え、鴻巣雛の隆盛を伝えている。

鴻巣宿の雛製造戸数(分布)については後述するが、天保4年(1833)『鴻巣宿商人講中連名帳』には、「武州仲間」28軒のうち14軒が鴻巣宿の雛製造業者であった。「武州仲間」は、木札の鑑札を持って一九となって冥加金(年金500疋)を上納して、活発に製造販売を行った。木札の雛形は、『沿革誌』にもみられたように、表面に「仲間」の文字に年月を書き、地頭である旗本藤堂家の焼印が押され、裏面に「雛遣子煉人形」と書かれ、横に「武拾八枚之内」と記されている。

鴻巣人形の生産が増大し、繁栄するなかで江戸雛屋仲間を圧迫するところとなったため、文政6年(1823)江戸雛屋仲間一番組17名より武州仲間を相手に訴訟事件が起きた。この事件については既に先学の諸研究があるので、詳細については省略するが、訴訟の概要は、武州仲間が江戸の雛職人を多数抜き去り、製造にさしかえたため、出向いて掛合ったが、武州方はまるで取合わず解決しなかった。宿村役人へも掛合ったが決まりがつかないので訴訟に及んだという内容であった。この訴訟は、江戸方の敗訴となったが、文久2年(1862)に再び江戸仲間が訴訟に及んだ。その後、双方の間で示談が成立し、和解をみたのである。両者が和解した「議定書」は、紛争の激しさを示しており、よくその事情を述べているので、や、長文であるが全文を紹介する。なお、原史料は漢文である。

議 定 書

元治元甲子年十一月

為取替申規定一札之事

一、御公儀御御法度の儀は申上るに及ばず、農間雛人形渡世方狼りの儀これなき様取替方嚴重に相守り申すべき候こと

一、御制禁の雛人形手細工は勿論、先買等決して致すまじく候、尚又去る戌年中江戸表雛問屋共より、渡世差障り出入の旨申立、南御番所へ召出され、御吟味中当子年十月中松平石見守様御奉行所に於て、厚く御利解を蒙り奉り、訴答相弁して以来申し分なく熟談内済り、則ち済口証文同月十六日御評定所へ差上げ奉り候趣意、きつと相守り申すべく候こと

但し雛人形弄物等迄、別して手数相かけ目に立候品手細工先買致すまじく候

一、雛手遊び人形部で際物類先買取引の儀は、仲間一同差障りに相ならざる様致す可く、尤も仕入方の儀は江戸向々の問屋店々にて相対買請け弁利よろしき様致す可し、且つ江戸問

屋手につけ居り候雛職人の儀は、兼て済口証文の通り相互に急度心得べき事

但し、諸色仕入方元直段へ引き競いなるだけ下直に高い仕り、相場高下は勿論、組合の内其の最寄向きの品甲乙に応じ値段相定め、不録これなき様申し合せ互いに取引き家業永続致す可く候

一、雛売買の儀に付き御府内差越し送り荷物は申すに及ばず、江戸問屋へ差障りに相成るべき所業、又は組合売場先え糶売、引売、且つ組合内見世先の商人へ直段高下を密談致し、自分方へ誘い込み内証売り等仕り、仲間差障りがましき儀は決して致す間じく候、若し余儀なく売買いたし候節は、其の最寄組合示談承知の上先買取極め申すべく候事

但売先へ不実意の取引致すまじく、尤売先にて不実あるいは勘定差障り候ものこれ有り候わば、掛合の上世話番へ申し出、そのもの名前張札いたし、組合一同取引致すまじく候、尤も勘定相立候わば、猶又相談の上以来取極め申す可く候

一、雛問屋差障り出入相手のもの一同宿々村々とも申合せ、以来狼りに相ならざるよう世話番立て置き、年々巡番に相廻し、毎年正月上旬世話番より通達の節は、早速寄宿者人、寄村寄村づつ出金い、諸事申し候し而売賤まじく平和に致すべき事

但し世話番相勤め候とも、自己の取はからへ致すまじく、若し又用向にて急廻状の節も、片時も滞滞なく早速出金い致す可し、且又毎年正月上旬定例の会合不参これなきよう心得べく候

一、渡世差障りのものこれ有る節は、其の最寄組合相談の上、当人方へ掛合い、やむを得ること候わば、其旨世話番へ申し出で差函を請うべし、尤も世話番の差略相そむき我意増長致し候得ば、組合惣代を以て其の筋へ御訴訟申し上ぐべく候

附 右雑用其外臨時諸入用相廻り候節は、組合一同先買甲乙に応じ、分合割を以て聊かも異変なく差出し申すべく候

右は、古来より取極も御座候得共、此の度猶又相改め一同示談承知の上、連印規定書き取替わさせ申し候、然る上は前書の廉々以来忘押無く急度相守り申す可し、万一右の条相背き平和渡世取崩し候ものは世話番より破れは勿論、其の上如何様に申立てられ候共、其節一言の異議申すまじく候、後日の為連印規定証文取替し申す趣、依て件の如し

元治元甲子年十一月

武州大里郡熊ヶ谷宿		太 之 吉 印
平 言 印	同州同郡藤久保	
常 言 印		佐 右 衛 門 印
同州入間郡川越鍛冶町		同州同郡大宮宿之内
忠三郎事	吉 右 衛 門 印	吉 留 新 田
同州同郡松郷		忠 八 印
忠 八 印	同州同郡上谷新田	
正 八 印		磯 五 郎 印

重右衛門	藤兵衛印
同州埼玉郡北河原村	源次郎
勘右衛門印	銀之助
弥助印	清吉
倉次郎印	八兵衛
同州同郡越ヶ谷宿	重藏
吉右衛門印	與市
知右衛門印	定次郎
千之助印	文吉
佐吉亭 佐右衛門印	四丁野村 文太郎印
源左衛門印	

明治以降の雛人形

明治時代以降、本県の雛人形の変遷については、まず、「鴻巣雛人形ノ沿革」(『県行政文書』)に記載の製造戸数の状況を紹介する。

県下雛人形製造地ハ南埼玉郡越ヶ谷町(製造家二戸)、岩槻町(一戸)、北足立郡鴻巣町(四十戸)、入間郡所沢町・春岡町(各一戸)等ニシテ、副業其他ノ従業者ヲ算スルトキハ鴻巣町八十戸、岩槻町五十有餘戸ノ多キニアリテ、而シテ文久二年五月東京雛屋一番組十七人行事浅草瓦町治郎左門地借訴訟人文七ヨリ、南ノ町奉行所ニ差出シタル訴状ニ徴スレハ、大里郡熊谷町、入間川越町・同郡松郷村・藤久保村、北足立郡大宮町・同郡上谷新田村(今ノ鴻巣町内)、北埼玉郡北河原村、南埼玉郡越ヶ谷町・同郡早野村等々散在セル当業者ハ二十五戸ナリシカ如シ、而シテ現況ニ徴スレハ鴻巣町(製造戸数八十餘戸)最盛大ニシテ、岩槻町(製造戸数五十餘戸)(下略)

とみえているが、明治初年には既に今日の雛人形産地である4か所の産地産業形成を伝えていいる。しかし、専業者は、越谷・所沢が各2戸、岩槻が1戸、鴻巣が40戸と現在の生産戸数とはだいぶ異っていた。副業で行う人形師も、鴻巣80戸、岩槻50余戸であった。この他、県内の雛人形製作者は、熊谷・川越・大宮などの町村に25戸あったと記述されている。この数字は文中のとおり文久2年の江戸雛屋と武州雛仲間との訴訟事件で書き上げられた戸数であるといわれるが、正確には表3のとおり18戸に過ぎない。ただし、生産地については記述どおりに符合する。なお、南埼玉郡早野村と記載される地名は、同郡四丁野村(越谷市)の誤記である。

明治時代以降の雛人形の変遷を理解する上で、諸史料に記載されている人形師名を、幕末から昭和6年まで、収集できる範囲で一覧してみたのが(表1～6)である。

表1 文政初年(1818～)武州雛屋仲間 表2 天保4年(1833)「鴻巣宿商人講中連名帳」

吉見屋 磯五郎	相模屋 万之助	岩木屋 磯五郎 (鴻神社蔵)
矢島 常次郎	矢島屋 三左衛門	吉見屋 磯五郎 筆 屋 彦右衛門
(二代目三左衛門)	恵比須屋 万五郎	花屋 茂七 若木屋 代助
	養屋 久兵衛	滝屋 初五郎
	太刀屋 弥五郎	山崎 彦右衛門
	太刀屋 栄八	和泉屋 亦兵衛

表3 文久2年(1862)「武州雛仲間」 (「関口家文書」)

居所	現市町名	雛仲間	支配(領主)
大里郡熊谷宿	熊谷市	平吉	松平下総守御領分所
"	"	常吉	"
入間郡川越宿	川越市	吉右衛門	松平友之丞御領分所
" 松郷	"	忠八	"
"	"	正八	"
" 藤久保村	三芳町	佐右衛門	"
足立郡大宮宿	大宮市	磯五郎	竹垣三右衛門御代官所
" 上谷新田	鴻巣市	磯五郎	藤堂采女之丞御知行所
埼玉郡北河原村	行田市	勘右衛門	宮崎誠十郎御知行所
"	"	倉次郎	宮崎誠十郎御知行所
"	"	弥助	大沢豊後守御知行所
" 越ヶ谷宿	越谷市	吉右衛門	"
"	"	源次郎	竹垣三右衛門御預り所
"	"	藤兵衛	"
"	"	卯右衛門こと千之助	"
"	"	源左衛門	"
"	"	浪之助	"
"	"	佐吉こと佐右衛門	"
"	"	清吉	"
"	"	八兵衛	"
"	"	栄蔵	"
"	"	与市	"
"	"	定次郎	"
"	"	文吉	"
埼玉郡四丁野村	"	文太郎	"
計			25人

表4 元治元年(1864)「武州雜仲間」(「関口家文書」)

居 所	現市町名	雜 仲 間	支 配 (領主)
大里郡熊谷宿	熊谷市	平吉	松平下總守領分
"	"	常吉	"
入間郡川越銀治町	川越市	忠三郎こと吉右衛門	松平大和守領分
" 松郷	"	忠八	"
"	"	正八	"
" 藤久保村	三芳町	佐右衛門	"
足立郡大宮宿	大宮市	忠八	松村忠四郎御代官所
" 上谷新田	鴻巣市	磯五郎	藤堂采女之丞知行所
埼玉郡北河原村	行田市	勘右衛門	宮崎磯十郎知行所
埼玉郡北河原村	行田市	倉次郎	大沢筑前守知行所
" 越ヶ谷宿	越谷市	吉右衛門	松村忠四郎御代官所
"	"	卯右衛門こと文之助	"
"	"	佐吉こと佐右衛門	"
"	"	源左衛門	"
"	"	源四郎	"
"	"	銀之助	"
"	"	清吉	"
"	"	八兵衛	"
"	"	重蔵	"
"	"	与市	"
"	"	定次郎	"
"	"	文吉	"
埼玉郡四丁野村	"	文太郎	"

表5 慶応2年(1866)「鴻巣仲間の議定書(規約書)」

嶋田屋 磯五郎 三浦屋 曾五郎 花屋 喜三郎
 和泉屋 又兵衛 矢し満屋 三左衛門 駿馬屋 勝五郎
 蛭子屋 市右衛門 吉見屋 助次郎 柏屋 勘六
 吉見屋 磯五郎 三谷 善次郎

表6 明治35年「埼玉県營業便覧」雜關係誌載

町名	人名	課号	備考	町名	人名	課号	備考
浦和町	秋田 廣吉		職人形製造店	鴻巣町	野野 鏡次郎	②	職人形商
"	萩原 兵太郎		職製造業	"	平間 忠右衛門		玩弄物商
"	藤原 泰吉		人形屋	"	白井 常吉		玩弄物商
川口町	萩原 三七郎		玩物商	"	大塚 安兵衛		"

草加町	加藤 全蔵	茶井屋	玩具商	"	高田 龍太郎	"	"
大宮町	橋本 角次郎	"	人形屋	"	新井 留吉	"	東京風人形製造
鴻巣町	小竹 丑五郎	"	玩弄物商	"	府川 源蔵	"	玩弄物商
"	磯野 勘二郎	"	"	"	五味 友三郎	"	玩物 小間物
"	島田 森五郎	同島田屋	玩物職人形盆花	"	醍醐 藤次郎	同本島屋	羽織り羽子板掛軸紙懸
"	酒巻 藤次郎	(つかさや)	玩物職人形	"	吉田 力	"	玩弄物
"	関口 仙太郎	"	玩物商	原市町	大野 忠蔵	"	職製造業
"	松村 夏五郎	同清水屋	玩物職人形製造	志木町	御田 作次郎	"	玩具店
"	島田 トク	"	玩弄物商	"	村上 盛松	"	玩具商
"	荒井 武兵衛	◎	職造人形商	川越町	大澤 定市	"	"
"	関口 磯五郎	今吉見屋	職造羽子板玩物	"	根澤 隆太郎	福田屋	"
"	秋元三左衛門	前	玩物人形製造業	"	中里 清八	"	"
"	伊藤 由五郎	今三浦屋	玩物職人形盆花商	"	其非 米吉	"	"
"	飛島川千代吉	"	玩物商	"	榎田利右衛門	今	書籍玩物
"	大塚長右衛門	今大塚屋	玩物職人形	"	遠藤 隆三郎	"	玩具箱商
"	関口 八太郎	同吉見屋	玩物人形盆盆製造業	"	鈴木 清太郎	"	玩具商
"	関口 国太郎	下吉見屋	職玩物職造人形商	"	河野 庄吉	"	"
"	秋元 ミツ	"	玩弄物商	"	松本 隆五郎	"	"
"	伊藤 房太郎	"	"	所沢町	山崎 萬吉	"	玩物商
"	山崎 喜助	"	"	"	二上 忠蔵	○	職玩物製造問屋
"	関口 桑吉	①	職造人形商	豊岡町	西藤 善右衛門	"	玩具商
"	長崎 市太郎	"	玩弄物商	"	野村 宗次郎	"	遊具 職人形製造
"	秋元 定次郎	同	玩物職造人形商	入間川町	石田 龜吉	"	玩弄物
飯能町	磯原 藤吉	"	玩物商	羽生町	川島 幸三郎	"	玩物商
松山町	石川 善次郎	"	玩物店	駒西町	新井 文吉	"	玩弄物商
小川町	内田 才次郎	"	断物商	岩槻町	的場 幸次郎	"	職商
"	加藤 時次郎	"	"	"	大倉 留五郎	"	"
大宮町	大曾 櫻伊之吉	"	玩物商	"	? 日 春 蔵	"	職屋
"	長谷部 信	"	"	富澤町	平澤 清次郎	信屋	萬小間物玩物商
本庄町	中原 夕子	"	"	越ヶ谷町	金田 市太郎	"	職職
"	松崎 福松	"	人形商	"	金田 仁三郎	"	職及職問屋
"	磯野 定次郎	"	玩物商	"	金田 善太郎	"	玩物商
"	廣瀬 栄吉	"	"	"	金田 善治郎	"	職職士
"	高原 タイ	"	"	"	金田 佐右衛門	"	職及職問屋
熊谷町	小林 健兵衛	"	書籍玩物雜貨商	"	金田 敏次郎	福田屋	職及職商
"	小林 隆次郎	今	玩物人形商	大沢町	須藤 勝次	"	職製造業
"	境村 武治	"	玩物商	"	御武内 高蔵	"	"
"	伊木 金次郎	"	御職人形師	栗橋町	遊見 栄次	"	玩物商
寄居町	岡田 七之	"	玩弄物商	幸手町	森田 政次郎	堤灯屋	玩具商
忍町	岡野 兼吉	"	玩物商	"	鈴木 国博	"	遊具職造
"	今泉 又市	"	職商	"	大久保 兼吉	◎ 松屋	玩物問屋
"	岡野 隆一郎	"	玩具商	"	"	"	"
加須町	中島 八五郎	大島屋	職人形玩物萬小間物	"	"	"	"
"	新井 季次	"	玩具商	"	"	"	"
"	岡 清右衛門	"	"	"	"	"	"

『営業便覧』の「雑及織問屋・会田佐右衛門」は店の位置から考えても「植木屋」である。創始者と同姓同名であるのはその名が代々世襲された名であるか、あるいは創業年代の伝承の差異によるものと思われる。

いずれにしても越谷雑の中心的存在が「植木屋」であることに違いはなく、ここで修業をした職人も数多い。『岩槻人形史一埼玉百年記念一』（昭46年岩槻人形連合協会発行）によると下図に示したような師弟関係があったと記されているが、現在では諸般の事情からそれらを確認し得ない。

植木屋と街道を隔てて斜め向かい側で雑職をしていた島田家では、初代の倉吉（明治10年生まれ）と2代目の幸太郎（明治31年生まれ）が植木屋で修業を積んだという。同時に幸太郎は東京浅草の守千吉の元でも仕事を習っている。この場合「親方」とはいうものの、実状は忙しい季節の間だけの手伝いといった感が強く、植木屋を通じて手助けの依頼があったようである。島田家は問屋であるが、他の問屋でも「モリセン＝守千吉」の元で修業をした職人が多いようで、浅草との関係は密接である。

その他の系譜では、手足作りの職人について下図のように伝えられている。管見によれば浅草や十軒店のような遠隔地で修業をした例はなく、いずれも周辺の職人から技術が伝えられている。その中で、大沢雄仙についてはその出自が明らかではないが、親方である大沢氏自身が渡り職人で越谷の地に立寄ってその技術を伝えたのだとされている。

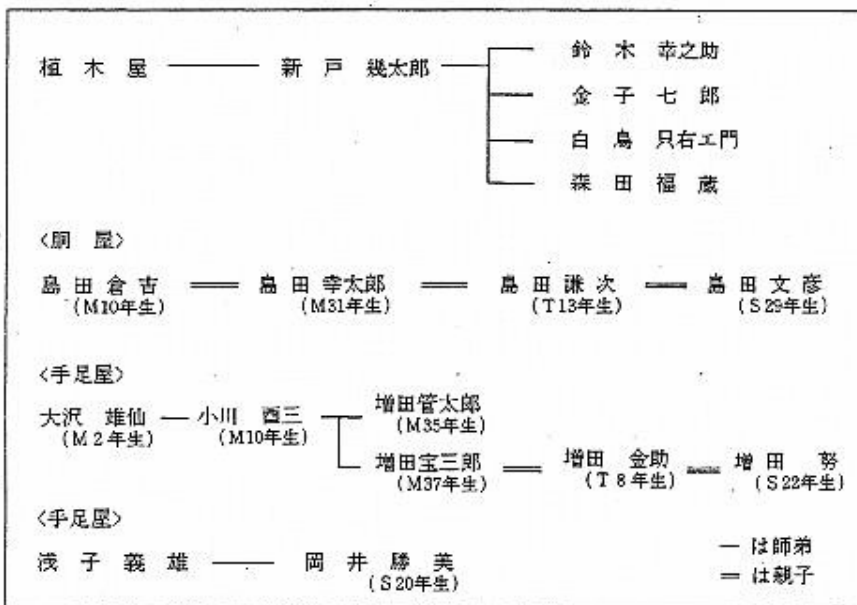


図4 越谷・雑屋の系図

表1 明治8年生産高

	八条領村々	越ヶ谷領村々	新方領村々	岩槻領村々	合 計
米 (精 米)	10,995石(381)	10,436(240)	9,003石	3,078石	33,513石(621)
大 麦(小 麦)	2,182石(131)	4,376石(145)	6,960石(633)	1,208 (31)	14,725石(940)
大 豆	667石	1,568石	1,850石	287石	4,372石
小 豆	49石	85石	59石	15石	208石
裸 麦			73石		73石
粟	21石		55石		76石
稗			20石		20石
蕎 麦(蜀 黍)			72石 (20)	3 石	75石(20)
里 芋(甘 薯)	2,271貫	(22畝)			2,271貫22畝
菜 種		25石	33石	9 石	67石
蓮 根	50駄	367駄		332駄	749石
桃 (梅)		2,840籠(320)	2,720籠22石 231貫53駄		
鶏 卵		665箇			665箇
藍 葉(茶)	(7貫)	2,981斤			2,981斤(7)
実 綿	1,070貫600		770貫380		1,841貫
白木綿(木綿布)		(910反)	850反		
蓮	14,750枚	22,250・60駄	3000駄	12,000・160駄	52,360枚220駄
酒 筵	27,500枚				27,500枚
吹 筵	78,000枚				78,000枚
草 鞋	70,000足	850足			70,850枚
小 箱			122,600箇		122,600箇
張子 逢 懸			40,000箇		40,000箇
雛人形・造花		21,350箇			21,350箇

明治8年越ヶ谷地域の生産物『武蔵国郡村誌』より

埼玉県民俗工芸調査報告書 第6集

埼玉の雛人形

昭和63年3月31日発行

発行所 埼玉県立民俗文化センター
〒350 岩槻市沼宮内3068-2
TEL 0487 (57) 50008

印刷 文明堂印刷株式会社
TEL 0467 (61) 1700

組織

現在越谷市では越谷雛人形組合を組織している。こうした組合組織が生まれたのは昭和期に入ってからで、それ以前は問屋仲間を中心に生産が行われていたようである。ここでは江戸末期以来の雛屋の組織について断片的ではあるが列挙する。

まず、文久2年(1862)5月、江戸の雛問屋浅草瓦町文七が起こした訴訟によって、相手方であった当時の越ヶ谷宿の雛商の名を知ることができる。この認定書の中には越ヶ谷宿の雛商として、吉右衛門、卯右衛門、藤兵衛、佐右衛門、源左衛門、源次郎、銀三、清吉、八兵衛、栄蔵、与市、定次郎、文吉と、四丁野村の文太郎の計14名が署名している。

明治初期には、越ヶ谷宿の地主層が雛作りや大工・紺屋を兼ねる傾向があり、雛等の製造に関わっていた地主層が5戸、それ以外の雛職が15戸であったという。「越谷市史第二巻」による越ヶ谷町住民の職業別構成は表1に示したとおりである。以後、明治8年(1875)には針ヶ谷岩吉、小野嘉七、会田市右衛門、会田銀之助、岡田藤兵衛、折原守之松、会田儀兵衛の7人の雛人形職と、一時雛職にたずさわった者として小沢仙之助、会田与市、中村卯右衛門、青木文吉らの名があがっている。それらは明治35年(1902)の「営業製覽」で、雛及職問屋会田佐右衛門、雛職工会田勇治郎、雛職会田市太郎、雛及職問屋会田仁三郎、雛及職商植田屋会田勘次郎、雛製造業須藤房次、雛製造業御武内高蔵として明記される。以上の断片的な資料から、明治期の雛屋は越谷町と大沢町を合わせて10~20軒程度であったろうと推定することができる。

また「日本雛祭考」(有坂与太郎著、昭和6年)には越ヶ谷雛について「大沢並びに大袋産出のものも包含している。安永年中(1772~1781)同町在住の、会田安右衛門の孫岡苗左右衛門という者が江戸へ上り、十軒店にて雛の製法を修得し帰郷後、自家の業として、

表1 越ヶ谷町住民職業別構成(明治初期)

種 別	地 主 層	
	戸 数	地 借 店 数
農 業	23	162
穀 商	19	8
荒物小問物	18	9
太物古着等	13	2
醬油味噌醸造	7	0
職 人	6	109
飲 食 料 亭	5	8
鉄物古道具	5	16
雛等製造	5	15
青 物 商	5	25
菓 子 商	4	21
肥料水油等	5	5
医師僧侶等	5	12
充 薬	3	2
湯 屋	3	1
質 屋	2	1
旅 籠 屋	2	2
煙 草 屋	2	3
豆 腐 商	0	3
筆 学 指 南	0	2
馬 士	0	6
人 力 車 夫	0	6
醫 女	0	1

「越谷市史第二巻」より

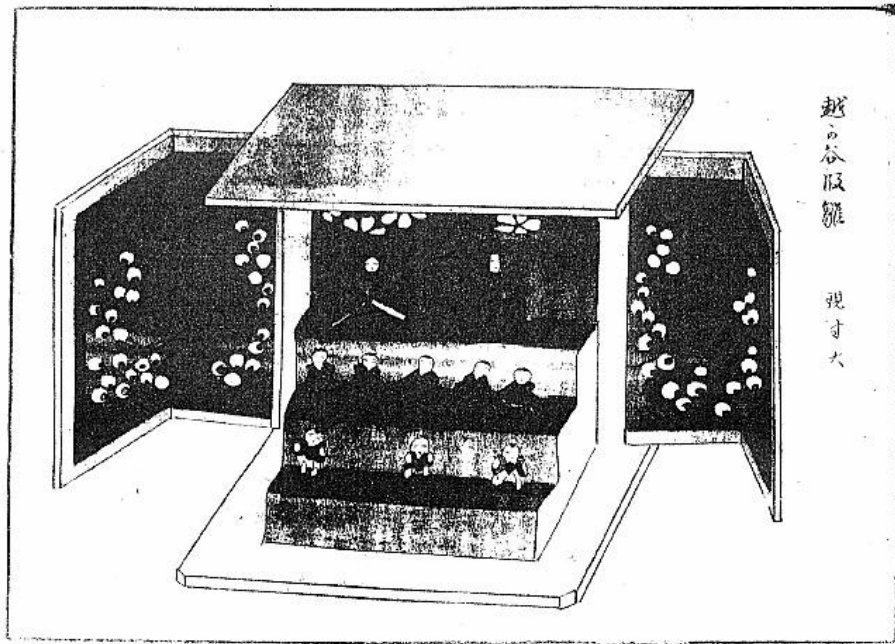
今日に伝へたもので、明治初年頃は越ヶ谷町に卸問屋が56戸あったが、現在では会田家の後裔会田佐右衛門(現当主正三)1戸に過ぎない。」と記されている。が、この記述に基づく原資料が不明なのでここでは参考程度の掲載としたい。この記述どおりに昭和初期の卸問屋が1戸に激減しているとすれば、多くの雛問屋が大正年間に転業あるいは廃業していることにならうか。雛屋が減少傾向にあったことは事実であろうが、明治初年の越ヶ谷町の卸問屋が56戸であったということは当時の同町の地主層の戸数が130戸余りであることから俄には首肯し難い。「56戸」は「5~6戸」の誤りであろう。(「越谷市史」第二巻参照)

それが昭和期に入ると急激に組織が大型化する。昭和15年(1940)の越ヶ谷雛人形製作組合名簿には総計で57名の職人が名を連ねている。もっともこの中には雛人形の付属品であるケース、桐箱、枠等の職人の他に造花や玩具製造の職人も含まれているが、雛人形製造職だけでも40名程の数になる。また、その住所からも越谷町・大沢町だけにとどまらず近隣の大袋村、蒲生村、松伏領村にまで組織が広がったことを知ることができる。

昭和62年(1987)の越谷雛人形組合員は43名で、この組合には三月・五月人形の関連会社も含まれている。ただし、小道具類も含めた付属品は機械化された工場で生産される場合が多く、組合員の中でも職人と呼べる人は年々減少する傾向にある。また、雛人形の生産には内職やパート・タイマーの労働力も多く提供されており、実際の組織は組合員の3倍程はあるという。

表2 越ヶ谷雛人形製作組合の構成(昭和15年)

職 種	住 所	組 合 員
雛人形製造(製作)	南埼玉郡越ヶ谷町	12 人
〃	〃 大澤町	10 人
〃	〃 大袋村	7 人
〃	〃 蒲生村	1 人
〃	北葛飾郡松伏領村	2 人
〃	〃 吉川町	1 人
雛 頭 師	南埼玉郡越ヶ谷町	1 人
〃	〃 大澤町	1 人
人形手・足師	〃 越ヶ谷町	1 人
〃	〃 大澤町	2 人
〃	北葛飾郡松伏領村	1 人
鋳 師	南埼玉郡越ヶ谷町	2 人
雛箱製造	〃 〃	4 人
そ の 他		12 人



越谷版籠

現寸大

6

大正四年十二月五日印刷
大正四年十二月十日發行

不許
複製

編輯主任 久保田米三

編輯兼筆者 西澤笛畝

發行兼印刷者 山田直三郎
京都市上京區寺町三條南十九番戸

發賣所

美術書肆 芸州
京都市寺町通二條南



清水晴風翁著畫

くろなるの友 彩色摺 六冊

天沼範村先生著

玩具之話 押畫 壹冊

職人形の製作は幾は分擔であつて、類から類から、一切の作務品を單獨で仕上げるのではない。生地を割め、刷、其他作務品には各専門的の技能を有する工作者があつて、之れを放り廻るの法主として採用服が従事してゐるのである。茲に、初習品製作者の姓名を調査の上、採録した事は後世に其の現状を知る者が、昭和年代の職人形が如何に盛衰を極めたかを知る上から、決して後身でないと思つたからである。たゞ調査地方が常に濃縮に亘つてゐる點は、同地方が職人形の生産地として、総根、産額共に全国に冠たるものがある所以に外ならないのである。

卸商の部

東京市浅草区字町二丁目十一	九月雜米店	横山 正三
浅草区字町二丁目十六	吉徳大光堂	山田 徳兵衛
浅草区南元町十五	明 月	木原 善太郎
浅草区藤橋町二丁目二十一	成 平	成舞 平兵衛
浅草区浅草公園前見世仁王門前	武蔵屋長山	錦田 小一郎
浅草区北元町二	藤 玉	津田 安兵衛
浅草区小島町七	法 法	旭 新八
浅草区榮久町七十一	平々堂守一光	鷗 津 仲助
浅草区高島町五十一		守 千 吉
浅草区神吉町二十五		大野 博 隆

同	浅草区馬道町五丁目十八	松 岩	横 川 英 男
同	浅草区馬道町五丁目四	松 岩	水 村 新 蔵
同	浅草区榮久町七十一	松 岩	高 野 孫 一 次
同	浅草区上平右衛門町七	松 岩	服 部 順 一
同	日本橋區本石町三丁目一	玉 五 六	市 原 長 太 郎
同	日本橋區本石町三丁目一	玉 五 六	堀 尾 貞 檢
同	日本橋區本石町三丁目一	玉 五 六	渡 邊 芳 次 郎
同	日本橋區扇町三十七	玉 五 六	平 井 三 造
同	芝罘三田二丁目十三	玉 五 六	高 橋 兼 吉
同	下谷區坂本町四丁目二十七	久 玉	清水 治 郎 吉
同	下谷區御徒町二丁目十九	久 玉	金 林 彌 太郎
同	下谷區御徒町一丁目五十六	久 玉	湯 木 長 太 郎
同	下谷區南船荷町八十	久 玉	鈴 木 聖 次 郎
同	下谷區中根橋四十五	久 玉	鈴 木 英 太 郎

同	神田區御河原十一號地	玉 仙	長 谷 川 英 平
同	神田區金湯町十一	好 盛 堂	萩 原 源 吾
同	神田區桂屋町三十一	花 屋	鈴 木 廣 之
同	牛込區新小川町二丁目八	花 屋	松 倉 龜 四 郎
同	小石川區小石町五十六	花 屋	堀 内 徳 兵 衛
同	四谷區龜町十三丁目二十三	花 屋	三 好 幸 次 郎
同	東京府板橋區高島町北品川路七十六	雙 月 玉	水 谷 誠 藏
同	豊多摩郡代々木町代々木新町三十三	雙 月 玉	林 茂 藏
同	北豊島郡日本橋區江戶橋一丁目七	會 津 屋	稻 村 太 郎 吉
同	(總括)東京市日本橋區江戶橋一丁目七	會 津 屋	岡 田 利 吉
同	小石川區金湯町十六	會 津 屋	竹 中 勝 吉
同	下谷區萬年二丁目四十一	會 津 屋	齋 藤 錦 三 郎
同	同 本所區鹿橋一丁目十五	會 津 屋	小 田 川 伴 太 郎
同	埼玉縣南埼玉郡岩槻町丹邊	會 津 屋	三 枝 實 四

同	北豊島郡野尾久町船形二百三十六		水元末之助
同	北豊島郡野尾久町船形三百一十六		高橋廣吉
同	北豊島郡野尾久町船形三百三十一		高橋仙藏
同	北豊島郡北千住町二丁目三十九		小田猛夫
同	北豊島郡三河島町七十九十二		苗木貞治
同	北豊島郡三河島町五百三十四		武井助次郎
同	埼玉縣所屬玉野岩槻町如倉	東照堂松月	平野喜四郎
同	南埼玉郡岩槻町新町	東方齋幸月	遠山芳雄
同	南埼玉郡岩槻町市宿	岩月齋新玉	森田新太郎
同	南埼玉郡岩槻町久保宿		鈴木山藏
同	南埼玉郡岩槻町久保宿		高橋耕作
同	南埼玉郡岩槻町太田		吉田阿久太郎
同	南埼玉郡岩槻町太田		顯澤吉之助
同	南埼玉郡岩槻町林道		重田幸

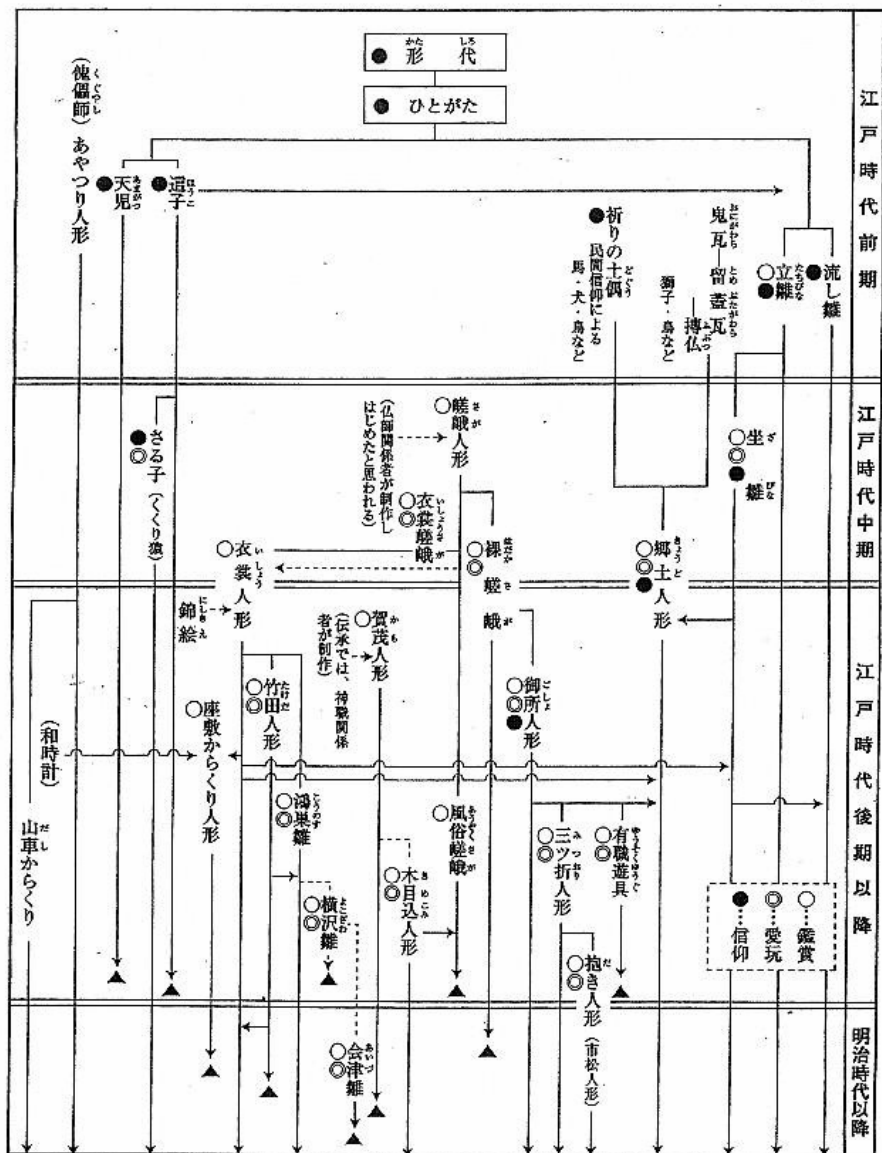
同	荏原郡戸越百七十六	玉	高橋伊三郎
同	北多摩郡府中町新沼町	光澤齋愛月	海老澤慶造
同	北多摩郡野方町新井百四十八		會田市太郎
同	北豊島郡板橋町合井益三百九十六		池木保次郎
同	北豊島郡野尾久町下尾久四十六		原田勲次郎
同	北豊島郡野尾久町上尾久八十五		山谷關太郎
同	北豊島郡野尾久町上尾久八十五		河井善徳三郎
同	北豊島郡野尾久町上尾久三千三百六十二		小川欣三
同	北豊島郡野尾久町上尾久二千七百九十五		鈴木吉太郎
同	北豊島郡野尾久町上尾久二千九百十五		大澤來吉
同	北豊島郡野尾久町上尾久三千百三十四		鶴岡優好
同	北豊島郡野尾久町上尾久千五百一十		上原謙作
同	北豊島郡野尾久町上尾久千五百一十九		山際通弘
同	北豊島郡野尾久町上尾久千四百二十三		杉田四郎
同	北豊島郡野尾久町上尾久千九百三十三		

同	南埼玉郡越ヶ谷町		堤田嘉兵衛
同	南埼玉郡越ヶ谷町		會田幸助
同	南埼玉郡越ヶ谷町		會田常藏
同	南埼玉郡大森町大通		栗原初太郎
同	南埼玉郡大森町大通		小林忠左
同	南埼玉郡大森三ノ宮		金子彌吉
同	北足立郡神島町		關口誠五郎
同	北足立郡神島町		關口繁吉
同	北足立郡神島町		關口政吉
同	北足立郡神島町		荒井三五郎
同	北足立郡神島町		荒井徳次郎
同	北足立郡神島町		内山光三
同	入間郡所澤町神奈町	永光齋幸月	渡谷仙造
同	入間郡所澤町日吉南		山下武治

同	南埼玉郡越ヶ谷町		平野康之助
同	南埼玉郡大森町		御成内慶之助
同	南埼玉郡大森町		須藤壽三郎
同	南埼玉郡大森町		須藤貞一
同	南埼玉郡大森町		須藤貞次郎
同	南埼玉郡大森町		野澤愛之助
同	南埼玉郡大森町		金原卯之助
同	南埼玉郡大森町		平野市右衛門
同	南埼玉郡大森町		池澤鐵次
同	南埼玉郡越ヶ谷町		會田佐右衛門
同	南埼玉郡越ヶ谷町		片山卯之助
同	南埼玉郡越ヶ谷町		鎌倉謙藏
同	南埼玉郡越ヶ谷町		岩瀬龜次郎
同	南埼玉郡越ヶ谷町		島田倉吉

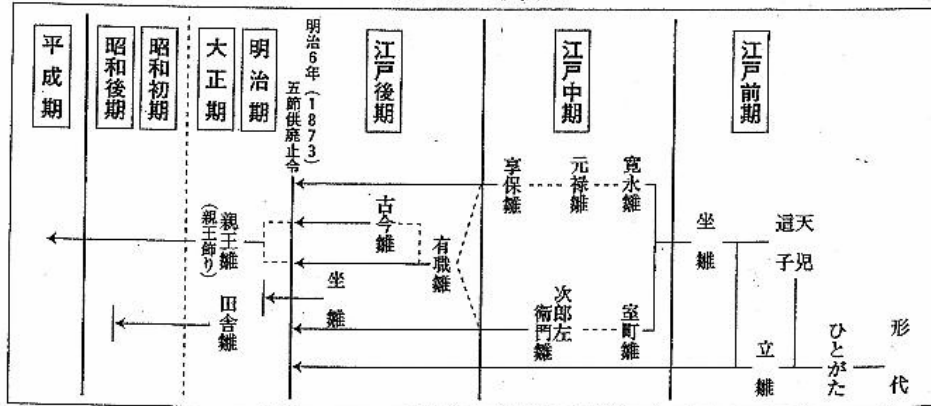
日本の古人形系統図

日本の古人形には、深い精神性が存在します。仏教以前の精神が現われるもので、西洋人形や玩具とは異なります。現在、私たちが見ることの出来る人形（にんぎょう）は、江戸時代、それも中期以降のものが大半を占めます。これらを、その使われはじめた時代、相互の影響、さらに用途やその人形の持つ性格などによって図示すると、おおよそ次のようになります。



31

雛人形の系統図



各雛人形の特徴

立雛……雛人形の成立過程でもっとも古い形と思われる。もともとは紙雛で、頭も紙製で簪を束ねて芯としていました。それが進化して、裂で覆った頭や木彫りのものとなり、さらに共冠などに発展しました。また、次郎左衛門型の頭を用いるようになると、金箔の鍍地や紙地の最高級品を使うようになり、宮廷ばかりか大名家にまで普及していききました。

坐雛……雛人形は、立雛とともに坐雛が発生したと思われませんが、伝世品は見当りません。江戸後期になると、袴着人形が節供の贈り物として用いられるようになり、袴雛を生まれた赤ん坊に与える風習が出来上がりました。それで遊んだ後は、川に返して穢れを戴きました。また、関東の農村では、坐雛を農作の縁起物として畑壇に飾っています。

室町雛……室町雛は、元禄期(1688~1704)以降の宮廷文化の中で作られたもので、時代名や地名とは関係のない呼称です。小振りで品格のある姿は、公家文化とは一味も二味も違いがあります。面相は、天児の顔から生まれたものです。

次郎左衛門雛……次郎左衛門雛は、宝暦年間(1751~64)に京の人形師・雛屋次郎左衛門によって作られました。顔は丸く、引目鉤鼻なのが特徴で、このデザインが公家や大名にもはやされました。はじめは東帯姿のものだけでしたが、立雛などさまざまな姿でも制作され、庶民にまで浸透しましたが、明治六年(1873)の五節供廃止令により廃れてしまいました。

寛永雛……寛永雛の成立時期は、寛永期(1624~44)ではなく、元禄期(1688~1704)以降と思われるが、

完かではありません。寛永雛は、小振りで、手を袖口の中でつぶっぽって指先は見えません。男雛は共冠になっています。現在、寛永雛と称されるものは、洗練されたデザインになっています。

元禄雛……元禄雛は基本形は寛永雛と同様ですが、男雛は共冠で手足がつけられています。女雛は裳の膝頭部分と打掛けに綿を多く入れ、全体のスタイルが三角形になっています。

享保雛……寛永雛や元禄雛を大型化し、庶民に普及したものが、町雛に分類され、享保雛と称されました。男雛は東帯姿に似た装束で、女雛は五つ衣・唐衣・裳などの姿をして、袴には綿を入れてふっくら見せています。また、女雛は大きな天冠を被り、槍扇を持ち、男雛は太刀を差して笏を持っています。サイズは大きいもので80cm以上のものもあり、豪華絢爛に仕上がっています。

有職雛……有職雛は、宝暦・明和年間(1751~1772)頃に公家の装束を正しく考証して、衣紋道の司家・山科家・高倉家の認定のもとに作られました。東帯のほか、直衣・小直衣・袴など、公家の姿を忠実に復元しています。

古今雛……リアルな姿をした有職雛の影響を受けて、町雛として生まれたのが古今雛です。明和年間(1764~72)に江戸池端大植屋が十軒店の原舟月に作らせて売りはじめたといわれていますが、京都の雛屋が有職雛の影響で新しく開発した町雛をさらに手直しして作ったものとも考えられます。容貌も写実的で、現代の雛のルーツといえるでしょう。

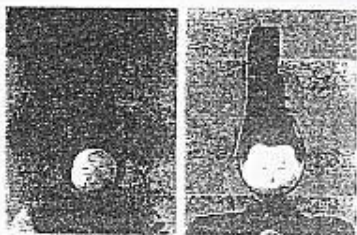
雛人形の顔

江戸中期に制作された坐雛の顔には、二つの流れがあると考えられます。一つは、天児の頭の流れを持つ丸顔のもので、もう一つは、冠と一体になっている頭（共冠）で四筒形（面長）のもので、土を両手で握ねると丸形になります。それを左右に動かすと円筒になります。雛の顔の移り変わりもこれと同じことがいえます。

つまり、円形が上手になつたものが、引目鉤鼻の「次郎左衛門雛」となります。この次郎左衛門型の雛は、宮廷・公家・武家を中心となって用いました。一方、町雛は、共冠型のほうを多く用いました。その代表的なものが、豪華華麗で、特に細などを入れて大きく見せた「享保雛」です。

また、後桜町天皇の時代に「有股雛」

が生まれ、顔がリアルになりました。この影響を受けて「古今雛」が生まれ、顔がハンサムになり、大流行をもたらししました。しかし、次郎左衛門雛や享保雛の流行も幕末期で終わりました。明治後期（大正・昭和初期）にかけて、庶民が豊かになるにしたがい、雛祭りも派手になり、雛の顔も多様な形になっていきました。



次郎左衛門雛 江戸末期



古今雛 江戸末期



享保雛 江戸末期



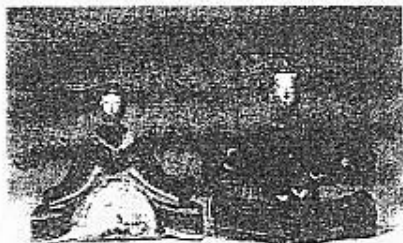
ハンサムな親王雛 大正～昭和期

素朴な味わい

土雛

三月三日の雛祭りか、女兒のお祭りとして日本国内に浸透したのは、武家や農家の副業として、土雛の生産が容易に出来たことがあげられます。

江戸期の東北地方の土人形は、享保雛などを写したのももあり、ローカルな味わいを醸し出しています。



土雛「見人形」(宮城県仙台市) 江戸末期



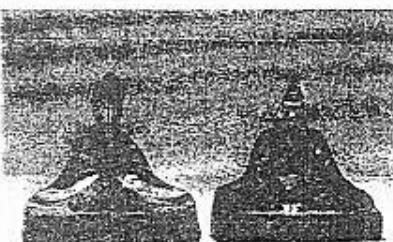
土雛「喜娘人形」(兵庫県) 昭和初期



土雛「天草人形」(熊本県) 昭和初期



土雛「国府人形」(愛知県豊橋市) 昭和初期



土雛「大山人形」(愛知県大山市) 明治～大正期



土雛「花巻人形」(岩手県花巻市) 江戸末期



越ヶ谷産磨の磨と旗

高橋大藏氏撰

七轉八起越ヶ谷産磨

▽七月の東京例會は越ヶ谷産磨の生産地へ大舉訪問だ。淺草雷門の東武電車正面階段下へと集合する所謂遠出である。之が花柳界の衆なら遠出當に好むつたい風姿で、鼻の下の長い鏡親類節を仲合はずのだが、吾々ではいつも乍らの素野暮揃ひで、映えぬこと夥しいテ△海雨シーズンではあるが、天候

に恵まれて降りもせず照りもせぬ梅雨日和だ。中には汗傘を却か帯厄介にした用意周到な老人もあつた。越ヶ谷ではあるが、二つ先きの「大袋」で下車するのぞと切符買場前で増永君の東遊振りも鮮やかだ。越ヶ谷でもてるのは、一行中では有坂會長と増永君だけであつたのは聊か細い、青田の職者

青川の長江、穀田飛び交ふ武蔵平野は爽快な気分を添はせて一行を迎へて呉れた。

▽大袋寮の名所案内は、米、麥、梅などの特産物がある。如何にも群の付近く鬱蒼たる溜水が紫の色にそれらしい格別である。田前傳ひに土地の説明賑やかな増永君は少々不安を覺えてか、一足先へ駆け去つた。水を際止めて前觸れもし、迎ひに引つ返すつもり引受け、蓋盤に添ふて得道へ導く蓋が何永君のせかせかした後姿が見へたが、何處やらへ消失せたマ地勢肥沃の地、路面平坦に閑散な街並は野趣を存してゐる。有坂會長は此處だ〜と左側の門へ運入る。一行も頼いて接近くへ一列に五人男の刺科白でも始めきつな顔付だが、肝腎な増永君が裏道傳ひに我々を迎ひに行つたとやら、更に呼び戻しの人が走ると云ふ賑やかさ、おあとからお先きへ涼しい両向の縁側に一両座を占め乳放れ頃の可愛らしい子猫も一行の日を暖めて呉れた。

▽門内廣瀬で、露茶と茂る種樹標本を背景に、粗に並んだ盆縁の美事き、更に手入れの行届いた大小の百樹も華持がよく、如何にも舊家である印象を受入れた。今、我がの並んだ縁先の中庭は梅の老樹龍の如く枝をさし交はし、その他立木を育こんで居る。苔藓した土の色も輝しく、短越しに見上げるやうな復元などの老樹には雀の囀りが取やかだ。さだめし歓迎の辭を述べて居るのであつたらう。有坂會長は「アレは何で云ふ鼻でせう〜」と「さすよ」と「ア、さうか〜」と園遊場で耳にする雀の囀聲も奇異に聞へるの不思議だ。眞實不思議なのはカツウヨ鳥の耳近かに啼くのである。増永君も加はり何代前がに使用した産磨の木型を鑑賞しつつ座敷へ主客側を描いてかきこめる。お茶に明味を調し草加煎餅に眼の色を變へた一同は、凍解知識として質問の矢が放たれる。此家の主人公高橋大藏君初め、生産者側は熱心に之に回答して和やか気分を醸出した。

型に狂ひが出ず木割れせぬことを確保として、糊に選定してあるのである。麥子紙(もと)の砂積袋に使用した紙の精製せぬものを水貼二枚、日本紙(反古紙)を一枚貼りとする。紙の水分は糊と日本紙で吸収されて乾燥し、木型に貼した部分(型)から自然に剝がれる。之を刀で背部を割き型から放し、刀を入れた部分、即ち剝れ目を数ヶ所利目を丈夫な紙で蓋ぎ更に日本紙二枚を上張りとし、數(瓦土)を取りつけて、乾いた頃胡粉を塗り辨磨(蒸磨)へ指して乾燥し色彩を施すのである。要するに紙張は下張二枚、中貼一枚、上張二枚と云ふ五枚張である。敷は目前の土で型に依つて大小幾種類を作り置き取りつけるので、土に布目のあるのは土型が布を蓋せてあるからであり、瓦の中央に穴のあるのは辨磨へ指して乾かす必要上から用意してあるのである。▽型で半且も先から型を取寄せて下すつた古利根川(中川流域)の段と、高橋君の令嗣が料理理の新餅な畑のものに舌鼓を打つて遊戯

を済ませ、一息入れて座談會に移つた。生産者側六名の内、高橋大藏、中村傳太郎、松崎武雄、松崎仙吉、森原七五郎の五君は産磨専門で、松崎初之助君は俗に製物師と云つて型于人形製作者で首摘虎など得意である。東京亀戸では聞君から仕入れてゐることを耳にした。野狐狼が先年亀戸(行つた時近及したら「次は講東の馬(亀戸)の天和を乗せて居ます」と自白した。海蔵とか越ヶ谷仕入(亀戸)の色彩を施し、亀戸人形で御座いなどは余り香ばしくないと思ふ。

(小山)お墨い所を御参集下さつて有難う御座いました。本日は越ヶ谷産磨の生産地訪問と云ふので生産者の方々に御田舎を廻つて座談會を開くことになりました。先づ有坂會長から話柄の御提供を願ふことにします。

(有坂)越ヶ谷産磨の實地調査を試みたのはもう二十年近くになりますから、こゝまで来たのは既長人の中で恐らく私が最初であつたかも知れません。それだけ高橋さんとは古い馴染になります。その馴染深い土地で、古い懐かしい昔懐かに集つて頂いたことを感謝します。けふはこちからも遠慮なくお尋ねしますが、皆様も亦忌憚のない意見をお述べ願ひたいと思ひます。先づ、高橋さんから越ヶ谷産磨の發祥と高橋家の代々についてお話を下さい。

(高橋)高橋家の初代は八太郎で此處一橋村から小半道ある船渡の邊で羽治初年に設してゐます。生前此處に移住しました。二代は八郎と云つて發の指法が自慢で一時探偵へ移りましたが長男が死没したため賣家に戻つて家を継ぎました。四代重業は養子で、五代が自分と云ふことになりました。

(有坂)越ヶ谷産磨が新家に伝はりましたか、今でこそ各地との交流はラタですけれど、當時の船渡なり問久里なりは殆ど都會に接觸のない土地で、きうした所に突然産磨がつくられるやうになつたとはいへません、例へば、他處

(高橋)日清戦争後、即ち明治四十年頃で、八歳の晩年に隆盛の機運を得たと云ふ譯です。

(有坂)販路はどらです。

(高橋)自分の製品は川崎の大師へ出してゐます。これは余談ですが、前方、店先へ置くと練の業工場の空氣に濡れて褐色するので、此頃は中へ入れるやうになりました。

（有坂）型の種類は。
 （有坂）芥子一寸三分一から四
 無し一三片一まで九種あります。
 一號、二號、三號、四號、五號、
 八號、十號、十二號、二十四號で
 すが、生産者に依つて多少の相違
 があります。
 （有坂）産地にはまだ公定價があ
 りませんが、生産者と公定價
 の制定を必要としませんか。
 （高橋）公定價はきめて貰ひたい
 と思つてはありますが……
 （有坂）いづれ組合の協定はあり
 ませうが、だからと云つて全部の
 市場で他々等ものはかりが買られ
 るとはきまつておません。大宮の
 ヤウに空売ものと結託する場合は
 どは、協同の協定價格がこちらよ
 り安かつたら越ヶ谷が壓倒される
 のは知れまかつてゐますので、恐ら
 く皆様が公定價の制定は必要に迫
 られると思ひます。何故今ま
 で民玩に公定價がきまらぬかと云
 ふ理由は、皆様が安易な所にはか
 り送つてゐるが、追力が足らぬからで
 す。率直に云つたら、貴商ものと
 は販賣價格の面で太刀打が出来な
 いから、貴商のもの買られるとこ
 ろはこちから送つて下す、と云
 つた傾きがあります。さう云つた
 具合で折角の市場を貴商のもの、既
 闘にまかせて了つた例は、今云つ
 た大宮がある筈です。安くするた
 め故意に品質を落しては困ります
 が、市場の繁華を流けるのには此
 際どうしても公定價が必要です。
 どつちにしても業者の方で送りに
 つて来ない、盛り上つて来ないか
 ら公定價もきめない、商工省の
 物價局は既にハツキリ云つてゐま
 す。それはそれとして落着きの許費
 はどうでせう。

（高橋）海外進出を考へて居ます
 が、氣候風土の關係から果して成
 功するや否や判りませぬ。此土地
 でも飽きられれば勝が溶解したり
 いろいろの支障もあり、年求から
 三月までといふ寒い期間に限られ
 てゐる次第です。から
 （小山）非常に参考になりました
 有難う御座います。

（有坂）海内進出を考へて居ます
 が、氣候風土の關係から果して成
 功するや否や判りませぬ。此土地
 でも飽きられれば勝が溶解したり
 いろいろの支障もあり、年求から
 三月までといふ寒い期間に限られ
 てゐる次第です。から
 （小山）非常に参考になりました
 有難う御座います。

（有坂）自分は次男に生れ、十四
 歳の時上州の人達に伴はれて産商
 の荷を擔ぎ古河を経て白河方面へ
 行つたのが、初めてに出る初めでした
 以來四十年間、宇都宮へ出賣して
 ゐます。
 （有坂）萩原さんが四十年前に白
 河へ出賣したと云ふ事實は、當時
 の越ヶ谷産物が点晴されてゐた証
 憑になつて面白いと思ひます。白
 河は点晴した産物が本来の土地で
 すから其處へ出賣する以上、現在の
 のやうに白眼でなかつたことは歴
 然としてゐます。この話一つで白
 眼の形式が生れたのはそれから以
 後だと云ふことが判ります。

（増永）今日では、關東一帯、西
 は静岡、北は白河迄まで目無です
 が、白河から先き東北地方と、静
 岡から先きは限入りです。
 （高橋）白眼の産地は上げ願ひ
 事を祈り、願が叶つたら眼を入れ
 ると云ふのが、關東の慣習しに違つ
 て居ります。
 （有坂）もと〴〵兩眼を入れた産
 地が本當ですが、現在の關東の慣
 習は商人の販賣的手段から出たも
 のとしても、これは巧い思ひつき
 です。
 （萩原）硝子玉を眼にして見まし
 たが、硝子は墨を導くので、ソノ
 マタへ胡粉を交せて、眼の玉を造
 るに切つたものと玉だけ残ると云
 ふ工夫をしたものでした。
 （有坂）越ヶ谷産物の用途は。
 （高橋）生糸の生産地でないから
 招徠的に兩賣賣を限ふと云ふこ
 とになつてゐます。
 （有坂）年産額ほどの位です。
 （高橋）生産者約三十軒で、一切
 小賣をしません。一軒五六十万個
 をつくり、年産額一萬圓以上に達
 してゐます。

（有坂）型の種類は。
 （有坂）芥子一寸三分一から四
 無し一三片一まで九種あります。
 一號、二號、三號、四號、五號、
 八號、十號、十二號、二十四號で
 すが、生産者に依つて多少の相違
 があります。
 （有坂）産地にはまだ公定價があ
 りませんが、生産者と公定價
 の制定を必要としませんか。
 （高橋）公定價はきめて貰ひたい
 と思つてはありますが……
 （有坂）いづれ組合の協定はあり
 ませうが、だからと云つて全部の
 市場で他々等ものはかりが買られ
 るとはきまつておません。大宮の
 ヤウに空売ものと結託する場合は
 どは、協同の協定價格がこちらよ
 り安かつたら越ヶ谷が壓倒される
 のは知れまかつてゐますので、恐ら
 く皆様が公定價の制定は必要に迫
 られると思ひます。何故今ま
 で民玩に公定價がきまらぬかと云
 ふ理由は、皆様が安易な所にはか
 り送つてゐるが、追力が足らぬからで
 す。率直に云つたら、貴商ものと
 は販賣價格の面で太刀打が出来な
 いから、貴商のもの買られるとこ
 ろはこちから送つて下す、と云
 つた傾きがあります。さう云つた
 具合で折角の市場を貴商のもの、既
 闘にまかせて了つた例は、今云つ
 た大宮がある筈です。安くするた
 め故意に品質を落しては困ります
 が、市場の繁華を流けるのには此
 際どうしても公定價が必要です。
 どつちにしても業者の方で送りに
 つて来ない、盛り上つて来ないか
 ら公定價もきめない、商工省の
 物價局は既にハツキリ云つてゐま
 す。それはそれとして落着きの許費
 はどうでせう。

（高橋）海外進出を考へて居ます
 が、氣候風土の關係から果して成
 功するや否や判りませぬ。此土地
 でも飽きられれば勝が溶解したり
 いろいろの支障もあり、年求から
 三月までといふ寒い期間に限られ
 てゐる次第です。から
 （小山）非常に参考になりました
 有難う御座います。



會社玩具製造本日
 一〇一ノ二川島町子丹野高野町

越ヶ谷隨想

田畑豐太郎

高橋大藏氏の家と云ふよりも屋
 敷と云つた方がびつたりする。如
 何にも舊家らしい荘荘した構へ、
 産産作の家を勝手に想像してゐた
 私は、これが産産を作られる味か
 と先づ驚かされた。
 深い産敷の床の間に、眞赤な
 三尺程の大産産がゆやゆに浮出て
 ゐた。きちんと片着いてゐる産敷
 の間に板根が二三枚見えたり、産
 子の大虎、小産産等があるのも、
 やつぱり普通の鳥家とは違ふと思
 はれた。

産産の産や産産を描く爲に、實
 に良工夫された獨特の筆を初め
 て見た。先頃私が産産の繪を描い
 た時、どうしても一筆である産の
 産が出ないで困つた。産細線
 から急に太くなるあれが、どう工
 夫しても出来なかつた。どうして
 産のかつとその筆ばかり考へて、
 筆の事に氣のつかひなかつたのは不
 覺だつた。必要と實際とから割出
 さされたこの科學的筆を見てつく
 づく感心させられた。初めは使ひ
 にくいが慣れると面白い筆に掛け
 てくる。

私産の爲に苦心して集めて養食
 に馳走して下さつた天然の美味
 脂太りの養産産ばかり食へつけて
 ゐる私など軽くて腹立たぬ味、ま
 るで産つたものを食へてゐる様か
 ら持たつた、草加せんべい、あ
 らも忘れられぬ味だつた。産まで
 皆さんで送つて来て下さつた心遣
 ひも、とても産しかつた。御家の
 方々に頼んだお忙しい思ひをおか
 けした事をお詫言する。

（有坂）型の種類は。
 （有坂）芥子一寸三分一から四
 無し一三片一まで九種あります。
 一號、二號、三號、四號、五號、
 八號、十號、十二號、二十四號で
 すが、生産者に依つて多少の相違
 があります。
 （有坂）産地にはまだ公定價があ
 りませんが、生産者と公定價
 の制定を必要としませんか。
 （高橋）公定價はきめて貰ひたい
 と思つてはありますが……
 （有坂）いづれ組合の協定はあり
 ませうが、だからと云つて全部の
 市場で他々等ものはかりが買られ
 るとはきまつておません。大宮の
 ヤウに空売ものと結託する場合は
 どは、協同の協定價格がこちらよ
 り安かつたら越ヶ谷が壓倒される
 のは知れまかつてゐますので、恐ら
 く皆様が公定價の制定は必要に迫
 られると思ひます。何故今ま
 で民玩に公定價がきまらぬかと云
 ふ理由は、皆様が安易な所にはか
 り送つてゐるが、追力が足らぬからで
 す。率直に云つたら、貴商ものと
 は販賣價格の面で太刀打が出来な
 いから、貴商のもの買られるとこ
 ろはこちから送つて下す、と云
 つた傾きがあります。さう云つた
 具合で折角の市場を貴商のもの、既
 闘にまかせて了つた例は、今云つ
 た大宮がある筈です。安くするた
 め故意に品質を落しては困ります
 が、市場の繁華を流けるのには此
 際どうしても公定價が必要です。
 どつちにしても業者の方で送りに
 つて来ない、盛り上つて来ないか
 ら公定價もきめない、商工省の
 物價局は既にハツキリ云つてゐま
 す。それはそれとして落着きの許費
 はどうでせう。

（高橋）海外進出を考へて居ます
 が、氣候風土の關係から果して成
 功するや否や判りませぬ。此土地
 でも飽きられれば勝が溶解したり
 いろいろの支障もあり、年求から
 三月までといふ寒い期間に限られ
 てゐる次第です。から
 （小山）非常に参考になりました
 有難う御座います。

（高橋）海外進出を考へて居ます
 が、氣候風土の關係から果して成
 功するや否や判りませぬ。此土地
 でも飽きられれば勝が溶解したり
 いろいろの支障もあり、年求から
 三月までといふ寒い期間に限られ
 てゐる次第です。から
 （小山）非常に参考になりました
 有難う御座います。

日本の張り子人形は北は岩手県の盛岡から南は沖縄県的那覇まで全區津々浦々にわたっており、八十にもおよぶ生産地の分布が確認されているから驚きだ。県内にも岩槻、越谷、浦和などが産地であるように江戸周辺は張り子生産地だった。また、藤枝、浜松、豊橋、豊川、名古屋といった中部地方なども濃密な分布を示しており、張り子が消費地を覗んで生産されてきたことが理解できよう。そんな熾榮的な人気を保持した張り子人形の技術はどこから伝来し、どの場所で生産がはじまったのであろうか。

千年の古都、京都を人々は「人形のふるさと」とが言う。あの伏見人形のイメージが人々の心をとらえたのだらう。そういえば、土人形ばかりではない。張り子も京都生まれの上方育ちだったのだ。

張り子の誕生

張り子は中国より、伝来した新しい人形づくり文化だったと言われている。いつごろ、伝来したのかは不詳だが、江戸以前であったことは間違いない。十七世紀後半に黒川道祐が著した山城国の地誌『雅州府志』には江戸初期の張り子づくりの様子が子細に報告されている。その内容は「凡ソ木ヲ以テ人形及ビ鳥獸ノ形状并ニ諸品ノ模範ヲ造リ、然シテ後ニ糊糊ヲ白紙ニ貼シテ、其外面ヲ張ルコト数遍、日ニ乾シテ後、縦或ハ横ニ之ヲ中分シ、小刀ヲ以テ張ル所ノ中間ヲ截リニツニ之ヲ別ケ、爾レ後再び之ヲ合セ函蓋ト為ス。是ヲ張り子ト謂フ。(途中略)内ニ在ル所ノ模範ヲ出シ、別ニ紙ヲ以テ合縫ノ間ヲ補直シテ全形ト為シ、彩色ヲ其上ニ施シ、面顔衣服ノ彩ヲマツ。是ヲ張脱細工ト称ス」といった具合で今日の張り子づくりと殆ど変化していないことが知れるのである。

また、『今徳職人尽百人一首』に描かれているはり子師の絵柄、あるいは『江都二色』に描かれている犬張りや首振りの張り虎などの絵柄からも、張り子は伝統的な郷土人形であることが理解できるかと思う。

埼玉の張り子

埼玉の張り子づくりは越谷・岩槻・春日部エリアでつくられてきた武州ゲルマ、越谷の船渡と好対象の砂原の張り子、浦和の西にある五関の張り子、川越の小仙波にある大師ゲルマ、秩父市別所の秩父ゲルマ(仮称)などが知られている。張り子の技法は基本的に変化はないものの生産地によってその張り子の種類や表情も異なり、それぞれが魅力的である。ゲルマ、張り子人形が主流だが天狗、おかめ、ひよっとこなどユーモラスな面張り子を製作してきたところもある。ただ、張り子技術の伝承は特定の地域が伝承してきたという側

面もあるが、より正確には特定の家筋によって継承されてきたと考えたほうが正しいと思う。具体的には船渡の張り子が松崎家であり、浦和の五関の張り子は蓮見家、秩父の井上家というぐあいである。張り子の製造は木型の保持と張り子技術の保持、そして労働力の維持、さらには販売ルート維持という4つのポイントがあるように、かりに資本が用意できても、歴史的な制約の多い産業である。それゆえ、家族内労働を基礎とした一家相伝的な仕事と解されているのである。

事実、埼玉で張り子の仕事に従事してきた家々は少なくとも3代ないし4代目という家が多い。船渡の松崎家は江戸時代からの流れだし、その他は明治以降とされているが、それでも永いあいだ稼業を守ってきたのである。

船渡の張り子

船渡の張り子は別名「亀戸張り子」とも呼ばれてきた。あのウソ替え神事でつとに知られる亀戸天神の官笛として売られていた江戸情緒を今に伝える粋な張り子である。松崎久男氏(1926年生)が伝承するわざは松崎家六代目の自負と自信が漲ったもので、置物であっても吊し物であっても首振りか中心の張り子群である。その種類は20余種を数え、それぞれが大小の変化をつけている。彩色は青・赤・金・黄色・黒それから白といった案配で独特だ。人形の顔はとぼけた味が魅力で、ゆらりと揺れながら見せてくれる表情は粋とか洒脱といった言葉が似合う雰囲気である。

張り子の作り方

張り子づくりの工程はさほど複雑ではない。前述の『雅州府志』の記述と大差はない。張り子はその形に応じた木型がある。①虎であれば胴と頭と尾の三つの木型が用意される。この木型に厚紙に少しばかり和紙を渡さこんだ、②グレイのボール紙(張り子紙と呼ぶ)を張りつけるところからはじまる。張り子紙は水気を含んで、柔らかな状態になっているから木型になじんでくれる。細かい部分は小さく張り子紙をちぎって張っていく。

それから、③その上を手でツノマタがまんべんなく塗られ、和紙(といっても印刷された和本の紙)が重ねられていく。和紙は張り子紙を包むように張られて、丈夫になっていくようだ。

【張り子の木型資料】



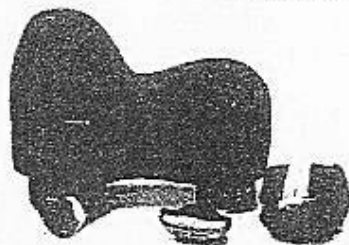
▲半乗り天神



▼二人連れ張り子



▲張り子



◆船渡の張り子はおもしろい◆

船渡の張り子は置き物と用し物に分類できる。それから、張り子の底部に土のおもりや骨がついたものともうでないものという分類もできよう。また、膝や子国司などにかを背負う形式、虎や

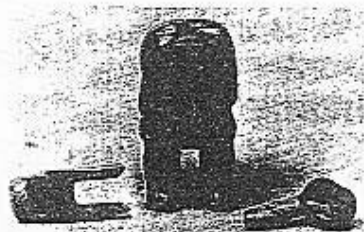
猪、牛などの人形が乗るといった形式もある。いずれにしても、虎に代表されるように骨を燃や形式が多い。虎は焼かれて固れるから見てわかる。雲雀はとてよい。

置き物には和服内、破骨食い仲人、旗争い、千利権争い、志北清、弁慶、子守、獅子舞、こつておかめ、とうなてれずら、半乗り天神、半乗り大衆、熊乗り金太郎、獅子舞の二人連れなどがある。一方の用し物は一本足虫、なこ虫、鳥、鳥居、まつたけ背負いなどがある。

これらの木型の種類も多い。木型から目鼻土がった張り子を想像するのは楽しいが、類もよく見ると共通しているものがある。半乗り二人連れの旗の一本足虫から出てくる顔と一緒だったりするもの。そこから顔を出すかで雰囲気が変わるのも楽しい。



猪

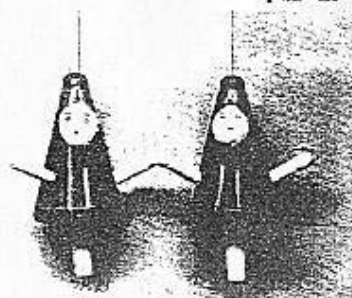


▲破骨食い仲人

▼天神



【船渡の張り子】



一本足虫



百張り虎



虎乗り金太郎



▲半乗り天神

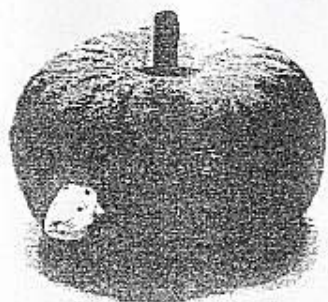
▼熊乗り大衆



【船渡の張り子】

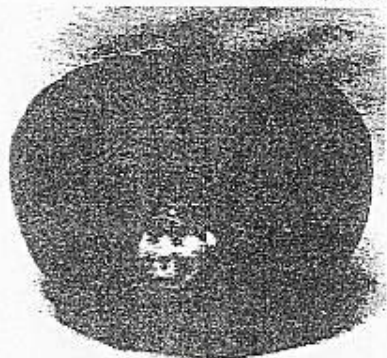


和装女



▲どうなすねずみ

▼どうなすおかめ



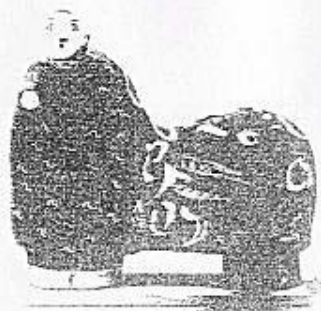
だるま背負い



獅子頭



【船渡の張り子】



獅子頭の二人通丸



▲船乗り金太郎

▼牛屋



松たけ抱きおかめ

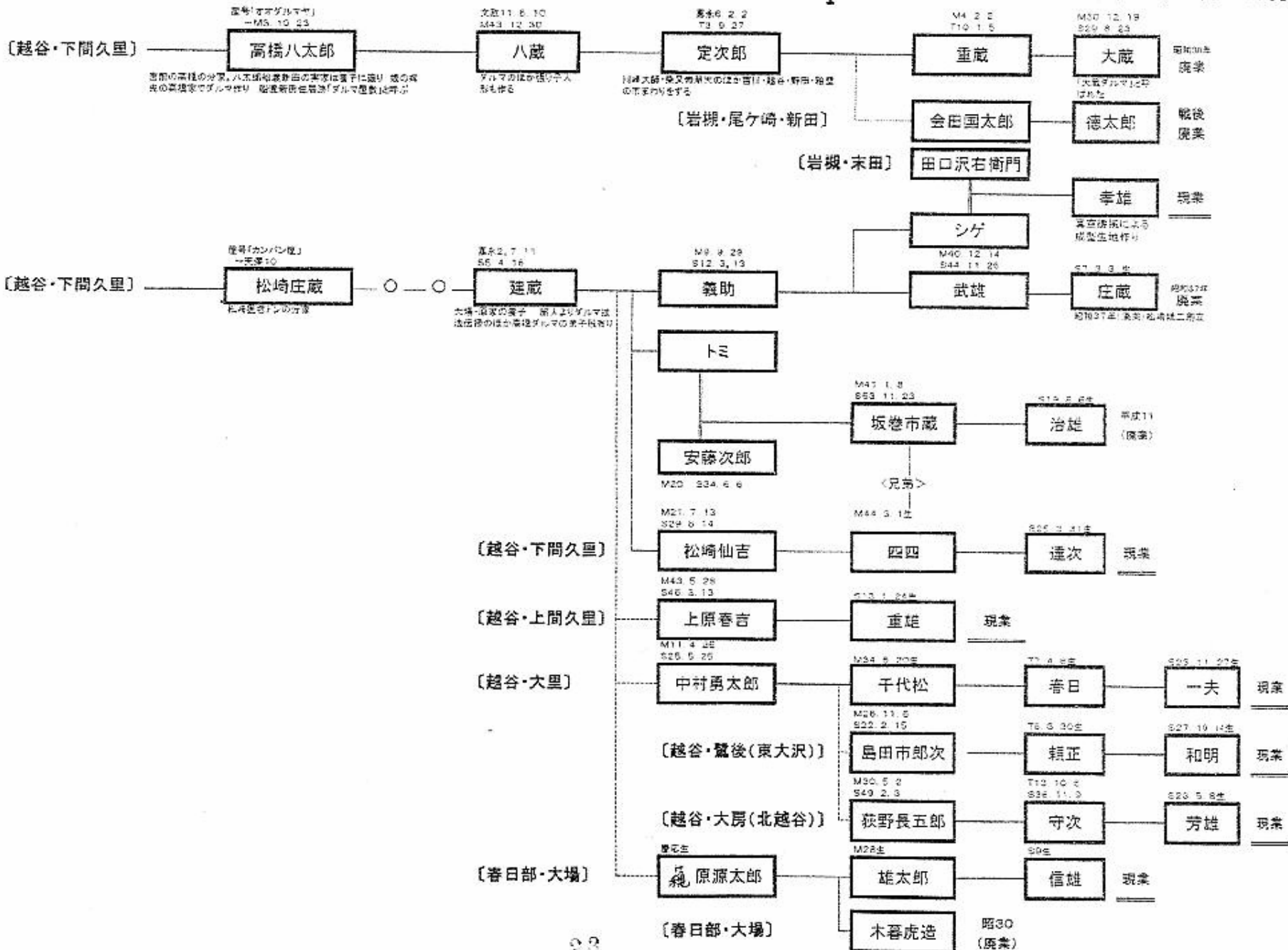


馬

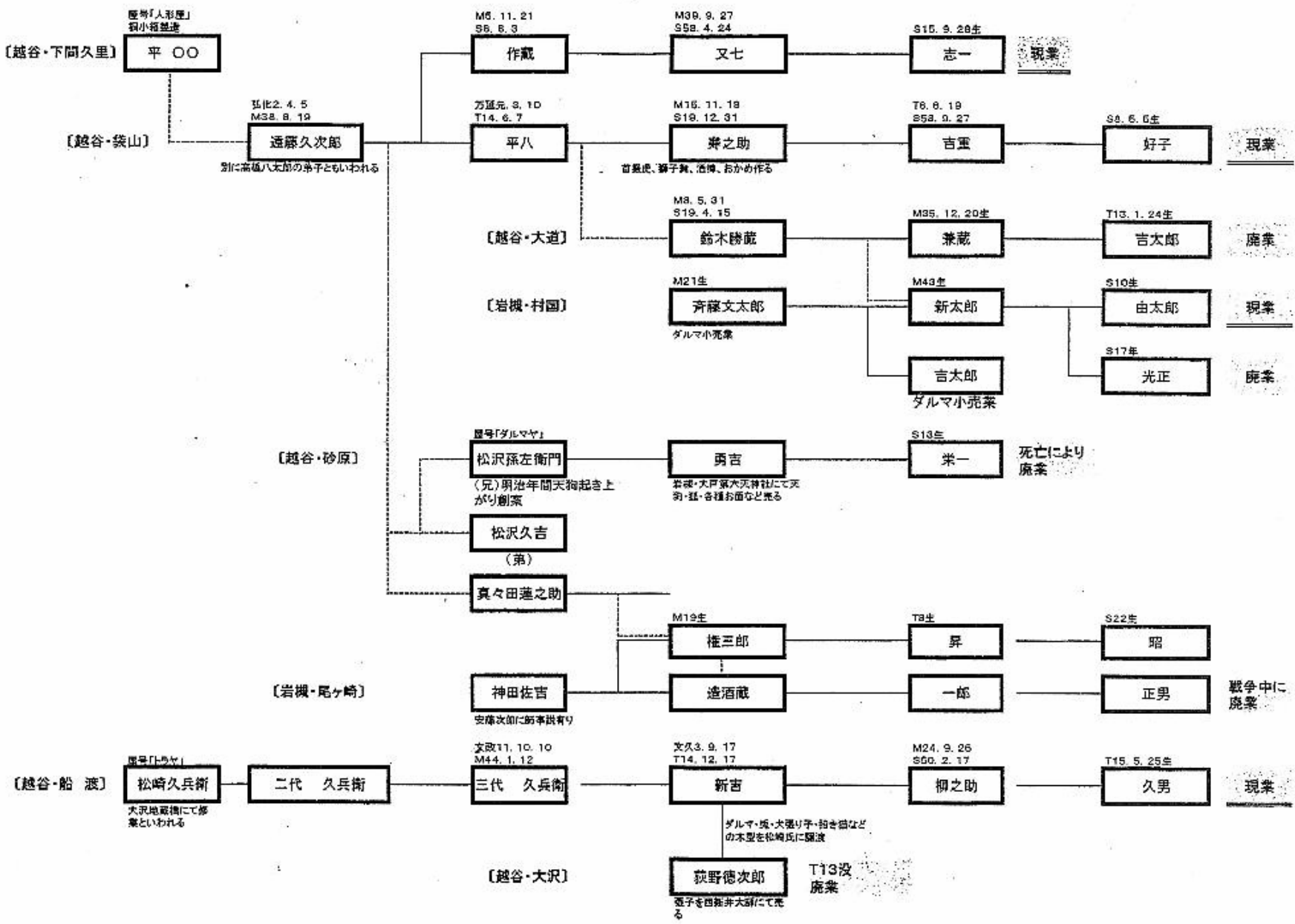


武州旅行ナゲルマ・坑員の系譜

(平成12年12月12日現在)



II



〔越谷・大竹〕

屋号「メンコヤ」
白倉福太郎
大正13年
廃業
大孫子・孫・重・文福茶
釜・神武天皇などを羽田
穴早稲荷で売る

〔春日部・大場〕

〔春日部・大場〕

〔越谷・大道〕

Ⅲ

〔春日部・大場〕

M37生

中島仙太郎

S5生

一成

廃業

M21生

七五郎

S4生

四郎次

現業

M25生

民十郎

T4生

晃蔵

S15生

正雄

現業

美子

〔越谷・恩間〕

T2生

斎藤初五郎

昭和50年頃
廃業

M8. 5. 31
S19. 4. 15

鈴木勝蔵

M35. 12. 20生

兼蔵

T13. 1. 24生

吉太郎

廃業

〔岩槻・浮谷〕

仙波岩石
ダルマ仕入れ販売業

啓助

式次鳥居上り
五色ダルマ・文ダルマ製作

M42生

四十二

S22生

道男

廃業

〔春日部・大池〕

井上織市

仙太郎

戦後
廃業

〔越谷・大里〕

山田久太郎

詳細不明

〔越谷・大道〕

川島又蔵

詳細不明

〔春日部・大沼〕

五十嵐健二

“春日部張子”を新しく創出し東京方面に出荷

—— 実線は親族関係
—— 点線は師弟関係

現業 は張り子業をしている
廃業 は張り子業をやめた

「系譜」の作成には
三田村佳子 調査報告書(埼玉県立民俗文化センター 紀要 1984版)
中村一夫 調査資料(越谷市だるま組合系統図)
松崎久男 (口述)
松崎庄蔵 (口述)
高崎 力(聞き取り:昭36・昭44・平12)
以上を総合したもので文書記録が皆無に等しいので語説を併記した版の私案である
今後の調査により大幅に修正されるよう期待する
平成12年12月12日 高崎 力

1	青森(青森市)	○	56-2	日進(大宮市)	●	107-5	山岡(恵那郡山岡町)	○	170	知井宮(山梨市)	○
2	下川原(弘前市)	○	59-1	大塩(青森市)	●	108-1	中津川(中津川市)	○	171	奥浜(浜田市)	○
	岩手県		69-2	大池(青森市)	●	100-2	士岐(士岐市)	○		民山市	
3	花巻(花巻市)	○	60	桶川(桶川市)	●		静岡県	○●△	172	日本原(岡田郡日本原町)	○
4	遠野(遠野市)	○	61	上荒(入野郡三芳町)	●	109	静岡(静岡市)	○●△	173	植月(岡田郡磐火町)	○
5	盛岡(盛岡市)	●	62-1	山口(所沢市)	●	110	徳津(徳津市)	●	174	津山(津山市)	○
6	弘前(弘前市)	○●	62-2	三ヶ所(所沢市)	●	111	藤枝(藤枝市)	●△	175	久米(久米郡久米町)	○
7	土沢(和賀郡土沢町)	○		茨城県		112	浜松(浜松市)	●	176	倉敷(倉敷市)	●
	群馬県		63-1	浅草(東京都台東区)	●	113	大井川(志太郡大井川町)	●		広島県	
8	筑前(筑前市)	○	63-2	今戸(東京都台東区)	○	114	新田(志太郡大井川町)	○△	177	宮の峽(三次市)	○
9	碓氷(碓氷市)	○●	64-1	江戸(東京都中央区)	○	115	坊ノ谷(小笠原小笠町)	○	178	十日市(三次市)	○
10	白石(白石市)	○	64-2	月島(東京都中央区)	○	116	金谷(榛原郡金谷町)	○	179	庄原(庄原市)	○
	秋田県		65	丸戸(東京都江東区)	○		岩手県		180	上下(甲斐郡上下町)	○
11	小坂(鹿角郡小坂町)	○	66-1	鹿ヶ谷(西多摩郡瑞穂町)	●	117	犬山(犬山市)	○	181	常石(沼津郡沼津町)	○●
12	八幡(秋田市)	○	66-2	箱根ヶ崎(西多摩郡瑞穂町)	●	118	桂島(丹波郡桂島町)	○	182	三原(三原市)	○
13	角館(仙北郡角館町)	○	66-3	石組(西多摩郡瑞穂町)	●	119	大口(丹波郡大口町)	○	183	広島(広島市)	●
14	白岩(仙北郡白岩町)	○	67-1	岸(武蔵村山市)	●	120	久保一色(小牧市)	○	184	廿日市(廿日市市)	●
15	中山(横手市)	○	67-2	三ツ木(武蔵村山市)	●	121	古知野(江津市)	○		山口県	
16	赤坂(横手市)	○	67-3	小川(武蔵村山市)	●	122	浅井(一宮市)	○	185	美山(下関市)	○
	山形県		68	砂川(立川市)	●	123	起(尾西市)	○		香川県	
17	酒田(酒田市)	○	69-1	高月(八王子市)	●	124	瀬戸(瀬戸市)	○	186	高松(香川県高松市)	○●△
18	鶴川(酒田市)	○	69-2	八王子(八王子市)	●	125	名古屋(名古屋市)	○●	187	多度津(津和野郡多度津町)	●
19	松山(磐前郡松山町)	○		埼玉県		126	常津(常津市)	○		徳島県	
20	鶴岡(鶴岡市)	○△	70	四ノ宮(平塚市)	●	127	乙川(平田市)	○	188	徳島(徳島市)	●
21	大塚(鶴岡市)	○	71	厚木(厚木市)	●	128-1	都尾(津南町)	○	189-1	大津(津門市)	○
22	庄内(鶴岡市)	○	72	山西(中郡二宮町)	●	128-2	旭(津南町)	○	189-2	鳴門(鳴門市)	○
23	猪苗代(猪苗代市)	○		新潟県		128-3	大浜(津南町)	○		兵庫県	
24	狐石(猪苗代市)	○	73	村上(村上市)	○	128-4	新川(津南町)	○	190	松山(松山市)	○●
25	茂江(山形市)	△	74	下助湯(岩手郡神林村)	○	129	西尾(西尾市)	○△	191	野田(須磨郡野田町)	○
26	平瀬水(山形市)	○	75	中条(北蒲原郡中条町)	○	130-1	矢作(阿南市)	○	192	宇和島(宇和島市)	○
27	山形(山形市)	●	76	乙次(北蒲原郡豊浦町)	○	130-2	舞田(阿南市)	○		高知県	
28	相模(米沢市)	○	77	菅ノ下(北蒲原郡豊浦町)	○	131	盛徳(豊後市)	○●△	193	五台山(高知市)	○
29	下小瀬(米沢市)	○	78	水原(北蒲原郡水原町)	○●	132	国府(豊後市)	○		徳島県	
30	成島(米沢市)	○	79	新瀬(新瀬町)	○	133	豊川(豊川市)	●	194	津原(徳島郡津原町)	○
	福島県		80-1	加波(新瀬町)	○●	134	小坂(伊達郡小坂町)	●	195-1	博多(福岡市)	○●
31	根ヶ子町(福島市)	○	80-2	加波(新瀬町)	○●		三重県		195-2	今宿(福岡市)	○
32	瀬ノ上(福島市)	●	81	横塚(海原郡横塚村)	○	135	羽津(三股町)	○	196	赤坂(坂城市)	●
33	会津(会津若松市)	●△	82	三条(三条市)	○	136	津(津市)	○	197	原方(原方町)	●
34	三春(田村郡三春町)	●	83	今町(真野市)	○●	137	久慈(久慈市)	○	198	深江(糸島郡深江町)	●
35	白河(白河市)	●	84	新尾(新尾市)	○	138	松原(松原市)	○	199	大川(大川市)	●
36	富田(双葉郡富田町)	●	85	奥(奥州市)	○	139	伊勢(伊勢市)	△	200	蘇川(蘇州市)	●
37	上岡町(双葉郡上岡町)	●	86	長木(双葉郡長木町)	○		滋賀県			佐賀県	
38	久の浜(いわき市)	●	87	佐波(双葉郡佐波町)	○	140	小瀬(神代郡小瀬町)	○	201	白石(三基郡白石町)	○
39	平(いわき市)	●	88	相川(双葉郡相川町)	○	141	熊野川(神代郡熊野川町)	●	202	尾崎(神代郡尾崎町)	○
	茨城県		89	柏崎(柏崎市)	○	142	土山(甲斐郡土山町)	○	203	与野(武雄市)	○
40	水戸(水戸市)	●	90	高田(上越市)	○		京都市			民権市	
41	那珂(那珂市)	●		富山県		143	清水(京都市東山区)	○	204	長崎(長崎市)	○●
42	奥州(奥州郡千代川村)	●	91	富山(富山市)	○	144	伏見(京都市伏見区)	○●	205	吉野(吉野市)	○
	栃木県			石川県		145	京町(京都市)	●△		熊本県	
43	宇都宮(宇都宮市)	●	92	金沢(金沢市)	○●△		大塚(大塚市)	○	206	天草(天草市)	○
44	栃木(栃木市)	●		静岡県		146	大塚(大塚市中央区)	●△	207	本庄(本庄市)	○
45	田沼(安藤郡田沼町)	●△	93	三國(愛知県三國町)	○	147	住吉(大塚市住吉区)	○	208	熊本(熊本市)	○●△
	群馬県		94	市比野(吉田郡松岡町)	○	148	堺(堺市)	○	209	宇土(宇土市)	●
46	沼田(沼田市)	●	95	武生(武生市)	○		兵庫県			大分県	
47	豊岡(高崎市)	●	96	大野(大野市)	○	149	福知山(水上市)	○	210	四日市(宇治市)	○
48	館林(館林市)	●		山梨県		150	下滝(水上市)	○		岩手県	
	千葉県		97	塩山(塩山市)	○	151	葛畑(養父郡葛畑町)	○	211	佐土原(岩手郡佐土原町)	○
49	芝原(生田郡芝原町)	○	98	甲府(甲府市)	○●△	152	早瀬(佐用郡上月町)	○		鹿児島県	
50	飯岡(海上郡飯岡町)	○		長野県		153	神戸(神戸市)	●	212	宮之城(薩摩郡宮之城町)	○
51	佐原(佐原市)	●	99	中野(中野市)	○		奈良県		213	東郷(薩摩郡東郷町)	○
52	八日市場(八日市市場)	●	100	立ヶ花(中野市)	○	164	香取(香取市)	○	214	苗代川(日置郡苗代町)	○
53	宮川(横須賀市)	●	101	長野(長野市)	●	165	初瀬(松井市)	○	215	粘土(拾遺郡粘土町)	○
54	洲原(印旛町)	●	102	松本(松本市)	●	166	奈良(奈良市)	●	216	日本山(拾遺郡日本山町)	○
	埼玉県			茨城県		167	和歌山(和歌山市)	○	217	向花(因幡市)	○
55	鴻巣(鴻巣市)	○●△	103	高山(高山市)	○	168	和歌山(和歌山市)	○	218	熊水(熊本市)	○
56-1	越ヶ谷(越谷市)	●	104-1	広草(可児市)	○	169	堺(堺市)	○●△	219	鹿児島(鹿児島市)	●
56-2	桜井(越谷市)	●	104-2	細(可児市)	○		鳥取県			沖縄県	
56-3	袋山(越谷市)	●	104-3	大森(可児市)	○	159	根越(八頭郡根越町)	○	220	那覇(那覇市)	○●△
56-4	大竹(越谷市)	●	104-4	御堂(可児郡御堂町)	○	160	鳥取(鳥取市)	○●			
56-5	大沢(越谷市)	●	105-1	藤岡(多治見市)	○	161	倉吉(倉吉市)	○●			
56-6	砂原(越谷市)	●	105-2	多治見(多治見市)	○	162	御茶屋(河内郡御茶町)	○			
56-7	黒代(越谷市)	●	106-1	瑞穂(瑞穂市)	○	163	茶子(茶子市)	○			
56-8	大塚(越谷市)	●	106-2	市原(市原市)	○	164	堺(堺市)	○			
56-9	大塚(越谷市)	●	106-3	市原(市原市)	○		山口県				
56-10	大塚(越谷市)	●	106-4	山田(山田市)	○	165	千代(八尾郡千代町)	○			
57-1	岩瀬(岩瀬市)	●	106-5	平塚(平塚市)	○	166	松江(松江市)	○			
57-2	浮谷(岩瀬市)	●	107-1	美野中野(恵那市)	○	167-1	加茂(大原郡加茂町)	○			
57-3	地蔵(岩瀬市)	●	107-2	佐々良木(恵那市)	○	167-2	大竹(大原郡加茂町)	○			
58-1	五関(諏和郡五関町)	●	107-3	武蔵(恵那市)	○	168	沖野(原野郡沖野町)	○			
			107-4	中津川(恵那市)	○	169	守市(守山市)	○●			

○土人形 ●選手 △観戦